

前田川遡行～大楠山～関口牧場(2026/7/31)

参加者：前田、石井、高橋

コースタイム：前田橋バス停 9:46⇒11:09 堰堤上 11:22⇒尾根取付き点 11:35⇒12:30 大楠平(昼食)13:05⇒14:00

沢山池下降分岐点⇒14:17 関口牧場 14:33⇒14:55 長坂バス停

※距離：9.3km、△417m、▽432m、5H9M

荒沢岳・丹後山の山行が魚沼地域の荒天の為延期となった。我々の山行期間を狙ったような激しい風雨の予報で神様の意地悪かと思った。急遽、前田さんと相談して三浦の山行を企画し会員に呼びかけたが、直前だったので、加わったのは高橋さんだけだった。

前田橋のバス停では幼稚園児の団体も降りた。今日の前田川遊歩道は幼稚園児一行と一緒に。暫くしてトイレに上がる階段の所で地下足袋に履き替える。前田さんは家から地下足袋だ。水量はそれほど多くない清流で、濡れるのを気にせず川を遡行できる地下足袋は快適だ。

前田川は以前来た時より荒れていた。2か所で崖が崩れ樹木と共に流れを塞いでいて、少し高巻きしなければならなかった。ほとんど人は入っていないようだ。見覚えのある竹林の倒木のトンネルを抜け、堰堤を右から乗越し、開けた所で休憩を取る。ずっと狭い川筋を遡行していた後なので休みを取るには良い場所だ。さらに少し進むと右から岩肌を水が流れ落ちる小沢に出る。小沢の左が尾根の取付点のはずだが、探すのに少し手間取る。少し登ると見覚えのある



るロープが出て来てしっかりと踏み跡に出る。所々踏み跡が無くなるが、左右を見ながら又踏み跡を見つける。大楠平の台地の一角に出ると前回と同様背の高さを越える猛烈な笹竹で行く手を阻まれる。踏み跡は全くない。レーダ雨量観測所の塔は時々笹竹の間から近くに仰ぎ見る事ができるが、なかなか近づけない。最後は強引に塔と思われる方向に笹竹をかき分け、踏みつけて施設の境界の道に出る。トイレのある大楠平の広場の木陰で昼食とする。ここでアプローチシューズに履き替え大楠山の頂上へ。頂上の広場には誰ひとりとしていない。急な階段をおり、

阿部倉分岐点で右に折れ、長坂古道を歩く。所々滑りやすい所はあるが、歩きやすい。沢山池に下る広場にある夏みかんの木には何もなっていないかった。ここから真っすぐ舗装された道を下り、南国チックな南葉山霊園を見ながら左折し関口牧場の看板のある所を右に入るとお目当てのソフトアイスクリーム売場だ。数人列をなしていたが500円で巨大なソフトクリームを味あう。さらに下ってバス通りに出て右折し長坂バス停から逗子駅に戻った。藪漕ぎの前半と涼しい風が時折吹く長沢古道のゆるやかな道の後半、暑い日ではあったが、達成感のあった山行だった。



(記録&写真：石井)

東北三座（月山・鳥海山・秋田駒ヶ岳）山行総括報告書

■総括

今回の月山、鳥海山、秋田駒ヶ岳を巡る三座の山行は、全体を通して「天候不順に悩まされた山行」となった。梅雨前線や台風の影響を大きく受け、予定の変更や途中撤退を余儀なくされる過酷な条件であったが、各所で高山植物の大群落に出会うことができ、厳しい環境のなかでも山の魅力に触れることのできた行程であった。

■各山の記録と詳細

1. 月山（天候を読んだ早朝アタックと高山植物）

- ・ 行動と天候: 午後から雨天になる予報を受け、レンタカーを活用して朝 5 時からの早朝登山を決行。序盤は濃霧で視界が 30~40m 程度であったが、下山時には徐々に視界が開け、眼下に広がる勇壮な下界の景色を堪能することができた。
- ・ 景観: 確認できただけでも 25 種類ほどの花々が咲き誇っていた。中でもニッコウキスゲとコバイケイソウが大群落を形成しており、非常に壮観であった。
- ・ 同行者: 石井さん、白石さん、原田さんと同行（白石さん、原田さんとは鳥海山への移動前に解散。石井さんとは全行程を共にした）。

2. 鳥海山（※荒天のため登山中止）および移動・停滞

- ・ 経緯: 7 月 13 日に登山を予定していたが、梅雨前線の北上および強い勢力を持つ台風 9 号の影響により、大雨・強風の警報級の荒天が予報された。非常に残念ではあったが安全を最優先し、登山中止を決断した。鳥海山まで同行予定だった原田さん、および月山をご一緒した白石さんとはここでお別れとなった。
- ・ 移動と滞在: 石井さんと共に鶴岡から象潟へ移動し 1 泊。鳥海山には登らずそのまま秋田駅へ移動する予定だったが、ここでも雨の影響により 3~4 時間の足止めを受けた。しかし、宿泊した象潟のホテルのご厚意で、チェックアウト後も長居させていただくことができ、人の温かさに救われた。

3. 秋田駒ヶ岳（暴風雨による途中撤退と花の癒し）

- ・ 行動と天候: 石井さんと共に秋田市内で 1 泊、田沢湖温泉で 1 泊したのちに登山を開始。事前の予報では霧や曇りであったため降雨は免れると期待していたが、結果的に今回の山行中で最も雨に降られることとなった。
- ・ 経過と撤退: 秋田駒ヶ岳の最高地点への登頂は果たしたものの、風雨が非常に強く早々に退散。その後、コマクサやチングルマがよく咲いているとされる「ムーミン谷」への周回ルートへ向かおうとしたが、絶え間なく吹き荒れる強風と雨に阻まれ、やむなく途中撤退。まさに辛酸を舐める山行となった。
- ・ 景観: 悪天候で厳しい道のりではあったものの、ここでもコバイケイソウとニッコウキスゲの群落を見ることができ、いくぶん溜飲を下げる思いであった。

■所感

鳥海山の登頂断念や秋田駒ヶ岳での荒天撤退など、計画通りには進まない厳しい自然の洗礼を受けた。しかし、月山での早朝の好判断や象潟での温かいおもてなし、石井さんと共に乗り越えた道中、そして何より各山で健気に咲き誇る花々の美しさは、本山行の大きな収穫であった。

■ 添付写真



月山神社本宮前にて（同行者と）



秋田駒ヶ岳山頂にて（濃霧の中）



秋田駒ヶ岳山頂にて（風雨の中）